

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第四部 汐路丸航海調査報告 平成24年度(2012年度)
航海報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/506

1. 平成 24 年度（2012 年度）航海報告 (Fiscal Year 2012 Cruise Report)

1.1 概要 (Annual Cruise Summary)

本船は、東京港を拠点とし東京湾、館山湾及びその周辺海域において実習航海及び実験航海等を行っている。

練習船汐路丸の平成 24 年度（2012 年度）は、オリエンテーション航海、実習航海、演習航海、実験航海、公開講座、共同利用航海、研修航海、入渠工事航海の、のべ 102 日、3,388 マイル航走した。

オリエンテーション航海は例年入学式直後に行われており、本年度は平成 24 年 4 月 6 日午前に海事システム工学科、4 月 7 日午後に海洋電子機械工学科、4 月 13 日午後に流通情報工学科の 1 年生が乗船し、東京港見学及び船内見学を行った。

実習航海は、海事システム工学科航海システムコース 3 年生、海事システム工学科情報システムコース 3 年生、海洋電子機械工学科機関システム工学コース 4 年生、海洋電子機械工学科制御システム工学コース 3 年生及び流通情報工学科 3 年生が乗船した。

海事システム工学科航海システムコース 3 年生は、前期と後期の実習航海を行った。前期は平成 24 年 5 月 8 日から 5 月 17 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、航海計画立案、レーダ取扱い、揚投錨操船、気象観測、電波航法計器調査、救命設備・消防設備取扱い及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的としている。

後期は平成 24 年 10 月 16 日から 10 月 26 日の間、前期同様 2 組に分かれて、それぞれ 4 日間の実習を行った。前期の実習項目の習熟と、海事英語の習得を目的としている。



Fig.1.1 消防設備取扱い



Fig.1.2 運航情報・映像情報収集

海事システム工学科情報システムコース 3 年生は、前期と後期の実習航海を行った。前期は平成 24 年 6 月 5 日から 6 月 14 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は操縦性能試験、操縦性能解析、動揺データ計測、船内システム調査、運航

情報・映像情報収集及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的としている。後期は平成24年11月20日から11月29日の間、2組に分かれて、それぞれ3日間の実習を行った。この実習は自動制御実験及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的としている。

海洋電子機械工学科機関システム工学コース4年生は、平成24年5月22日から5月31日の間、2組に分かれて、それぞれ3日間の実習を行った。この実習は、機関及び推進・抵抗実験、FO噴射ポンプタイミング計測、救助操船、救命設備・消防設備取扱い、機関当直及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的としている。



Fig.1.3 機関及び推進・抵抗実験



Fig.1.4 船内生活（食事）

海洋電子機械工学科制御システム工学コース3年生は、平成24年11月6日から11月15日の間、2組に分かれて、それぞれ3日間の実習を行った。この実習は、Z操縦試験、機関特性実験、機関当直及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的としている。

流通情報工学科3年生は、平成24年4月17日から4月26日の間、2組に分かれて、それぞれ3日間の実習を行った。この実習は、操縦性能・旋回径測定及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的としている。

演習航海は、海事システム工学科航海システムコース3年生及び海事システム工学科情報システムコース3年生が11月から1月の間、各コース2組に分かれて、それぞれ4回東京湾にて操縦性能測定、自動制御等の演習を行った。

上記実習航海及び演習航海には、担当教員が乗船し、学生の指導にあたった。

実験航海は、合計6回、東京湾、館山湾及びその周辺海域において、それぞれ3日間の航海を行った。実験航海には、名古屋工業大学、東北大学、宇都宮大学、コスタリカ大学、日本大学、独立行政法人海上技術安全研究所、日本無線株式会社、三井造船株式会社、玉野エンジニアリング株式会社、東京航空計器株式会社から研究者が乗船し、研究機材を用いてデータの収集を行った。

また、海運ロジスティクス専攻（3級水先）の学生が乗船し、実習及び運航データの収集を行った。

公開講座は、平成24年7月14日に、公開講座修了者を対象として、東京港から浦安沖、京葉シーバース、東京湾横断道路、中ノ瀬を經由する東京湾クルーズを実施した。

共同利用航海は、横浜国立大学、日本大学、芝浦工業大の3大学、合計8日間の航海を行った。航海には、それぞれの大学から担当教員、TA及び本学の担当教員が乗船し、学生の指導にあたった。

研修航海は、平成24年9月26日に、社団法人舶用工業会加盟各社社員の乗船研修を行った。研修では、船内見学を実施、航海当直を体験し、船舶運航の知識・理解を深めた。

入渠工事航海は、平成24年9月3日から9月14日の間、新潟造船株式会社三崎工場において、合入渠工事を行った。

本年度は、回航時に国際海事セミナーとして本学高木教授、海事システム工学科航海システムコース4年生、シンガポール海事大学教員1名及び同大学学生4名が乗船し、航海当直を実施、東京湾、浦賀水道及び入渠作業等を見学し、交流を深めた。



Fig.1.5 共同利用航海



Fig.1.6 防火部署操練

1.2 汐路丸要目表 (Ship Specifications)

Name of Ship: Shioji - maru Type: Training Ship, Motor Ship
Owner: Tokyo University of Marine Science and Technology
User: Tokyo University of Marine Science and Technology
4-5-7 Konan, Minato-Ku, Tokyo, JAPAN
Port Registry: Tokyo
Call sign: JG4644
Name of Master: Takanori MOCHIDA
Dimension: Length Overall 49.93 meters Breadth 10.00 meters
Length (P.P.) 46.00 meters Depth 3.80 meters
Gross Tonnage: 425 tons
Main Engine: Diesel Engine 1,400ps × 1, Single Screw (C.P.P.)
Cruising Speed: 14.12 knot
Complement: Officer 6 persons, Crew 6 persons, Professors 6persons,
Cadets 44persons,
Total 62persons
Navigation Equipments:
GPS navigation system, ARPA radar, Doppler sonar, E.M.log,
Echo sounder, AIS, ECDIS, INT-NAV system,
Maritime Broadband Communication System, etc.

このページは非表示です。

This page is hidden from view.